

学習日誌

6月21日(金) 大雨	講 師	座間市文化財調査員 古川 修先生
出席者数 34名	記録者	東地区文化センター 柳澤 粧容子
講座名	郷土学習(特別回) 『相模原畠地灌漑用水～幹線水路と支線水路の今昔～』	
プログラム担当者	東地区文化センター	
時間・場所	13:30～15:30	座間市公民館 集会室

【学習内容】

[第1部] 配布資料をもとにした講義 「畠地の灌漑＝通称：畠灌」

①相模原開発畠地灌漑事業の説明

- ・相模原から藤沢方面の地域の畠を灌漑する神奈川県の事業
- ・最初は関東内でも大きい台地の上に水田を作る計画だったが、戦後、畠地灌漑に変更。
- ・幹線水路は県、支線水路は団体の管理(農家は地区の組合に加入)、その事業費の説明等

②特徴：計画的間断灌水、自動水位調節の研究、幹・支水路の形状(数種類)、水路の通し方など

③問題点

- ・具体的実験材料が乏しく、農民にも経験がなく積極的研究の方法をつかむことが出来ず、東大農学部に研究を委託したが、指導啓発はうまくいかず様々な衝突、問題が生じた。

④事業の歴史

- ・明治時代に榎本武揚神奈川県知事の援助も水田は実現不可能、戦後、畠地灌漑を農林省に請願し、昭和23年(座間町では24年)起工、昭和38年に完成(したといわれている)
- ・昭和45年には事業終了となり、幹線水路にふたをして遊歩道化、支線は撤去となる。
- ・さがみ野・東原の市営水道開始～現在に至るまで

[第2部]

様々な写真による水路の形状や設置場所の説明、現在の状況などを古川先生が壇上を動き回りながら熱く語ってくださいました。懐かしい写真に会場も度々沸いていた。

【感想】 皆さんの感想の中から抜粋

- ・何気なく見過ごしていた道の脇にある水路…の跡… ほり下げてみると、とても興味深い。
- ・昔の人は田畠灌漑事業に苦労されたんだなと感心致しました。
- ・農業にとっての水の大切さを改めて感じました。
- ・一つの出来事は、一つの元(もと：原因)だけでおこったわけではない。別の側面と独自の見解(ご本人の言葉では「キケンな発言」)があること。両面あったということだろうか。
- ・栗原散歩コース周りにあるU字管の由来が分り納得。
- ・座間の歴史でもそれ程古くない時期に施設されて、また撤去し、戦後の食糧事情に苦労した背景が思い出された。
- ・畠カンに知識は東原から相模が丘地域しか知らなかった。壮大な事業であったことは知らなかった。機会があれば訪ねてみたい。
- ・灌漑用水の現存はだんだん少なくなって淋しい限りです。ここにもある、ここにもあると見つけるのはとても楽しいです。